

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2011年4月30日】

団体名 手・サッカー協会

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

手・サッカー大会

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

1. 障害のない人には障害は個性の一つであるという事を理解してもらい、特別に何かをしなければならないという考えや思いをなくし、その個性を積極的に受け入れてもらい、障害者と関わってもらうようにする。
2. 障害のある人には健常者に対し、自分が必要としている事を訴えることは何も遠慮する事でも特別な事でもないということを判ってもらい、積極的に社会活動に参加できるようにする。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

1. 会場:世田谷区立東深沢中学校体育館、東京都立光明特別支援学校体育館
2. 参加者:障害者(児)、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人等
3. 実施期間:大会=4月18日及び9月12日 交流試合=2011年1月23日
4. 参加人員:大会=100名 交流試合=1回当たり50名
人員:職員1名、協力者12名、ボランティア20名

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

今年度は、より多くの人との交流の機会を増やすため2回の大会を実施した。また、大会会場も別の場所にしてそれぞれの地域やその学校に通っている児童・生徒や卒業生など幅広い参加者を得た。また、第13回大会に参加した人が第14回大会にも参加したりして、その時限りではない繋がりが生まれた。このような繋がりを大切に、参加した人たちがそれぞれの地域で、障がい者・健常者とも何の偏見もないごく自然な交流に広がっている。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

人を思いやるという事は障害のある人もない人も同じで、何も変わることはない。この基本が、手・サッカーというゲームを通して再認識されました。うまく言葉にできない人もいました。身体が思うように動かせない人もいました。そういう人に対して障害のない人は自分がどうかかわっていくか、考えて動いていました。また、障害のある方も、自分がどう動いたらボールが繋がりにゴールに結びつけられるかを考えて、ポジショニングしたりボールを受け取りに行ったりしてみんなが一つになってゲームに参加し楽しんでいました。そして楽しみながらお互いがそれぞれ思いやる気持ちを改めて感じました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし